

人によって価値観が違えば、美しいと感じる基準もまったく異なる。

ある日、私はふと気づいたことがあります。

クリスマスシーズンになれば、クリスマスツリーが登場します。

小さなツリーから大きなツリーまで、規模はさまざまです。

特に巨大なクリスマスツリーは、その存在だけで、ツリーの周りになぜか多くの人たちがたくさんやってきます。

クリスマスツリーが、美しいからです。

人間は心の中では潜在的に「癒されたい、感動したい」と思っています。

美しいものを見たときに、癒しと感動を求め、近づこうとします。

美は、癒しであり、感動です。

しかし、です。

私は、信じられない人を発見しました。

目をこすりましたが、夢ではありません。

ほとんどの人は美しさに引かれて近づきますが、まったく興味がなさそうにしている人を発見してしまいました。

腕を組んでタバコを吸い、クリスマスツリーをほとんど見ることはありません。

「こんなに美しいクリスマスツリーがあるのに、全然興味がなさそうだな」

事実、その人は本当に興味がないのでしょうか。

美しさの価値観が違います。

大切なことは「何を美しいと感じるかは、人によって大きく異なる」ということです。

人によって価値観が違えば、美しいと感じる基準もまったく異なります。

美しいクリスマスツリーを見て感動するのは、分かりやすい例です。



人によっては、まったく別の対象に美しさを見いだします。

平凡な壺に見える古美術品でも、秘められた奥深い歴史に気づき、魅力を感じる人もいます。

画伯が描いた、一見すれば理解できない絵でも、鋭い感性で描いた傑作だと感じ、鳥肌が立つ人もいます。

難しい数学の方程式に、美しさを感じる人もいることでしょう。

宇宙の神秘に対して、美しさに感動し、涙を流す人もいます。

何に対して美しさを感じるのかは、人それぞれということです。

そういうことは自分には理解できなくても、理解できる人には最高の癒しであり感動です。

ということは、見方によっては、すべてが美しいです。

美しいものはそこら中であって、問題はそれらをどう見るかです。

感じる感性があるかどうかです。

あなたが美しくないと感じることで、人によっては感動して涙を流すことがあります。

「すべてのものは美しい」という前提で、あらゆるものを見てみましょう。

それは今あなたの目の前にある平凡な小物でも、見方を変えれば、美しいはずです。

「それに気づくか。感じられるか」です。

のんびり気楽に生きる心の習慣 その3

すべてのものは美しいことに、気づく。